

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：加藤 雅久 就任年月：2018 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：山崎 鯛介
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>国内の建築アーカイブズ組織相互のネットワーク形成と情報共有。 また建築アーカイブズのもつ課題への対応の検討</p> <p>1. 国内の建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催 2. 建築アーカイブズの運営にかかわるワークショップの開催 3. 上記を通じて共有された課題の整理と、それへの対応の検討</p> <p>初年度：①建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催（西日本中心） ②建築アーカイブズ運営にかかわるワークショップの開催 ③アーカイブズ、アート・ドキュメンテーション、キュレーション関係者へのヒアリング</p> <p>2 年度：初年度と同様（①は東日本中心） 3 年度：初年度と同様（初年度、2 年度にもれた地域を中心） 4 年度：4 年間の総括としての合同活動報告会を開催</p> <p>上記の、建築資料所蔵機関との報告会、ワークショップと平行して、 （1）建築資料の収集・整理・公開のための共通の方法論を検討する （2）本会ならびに関連学協会の協力を仰ぎ、内外における建築資料の重要性と、その保存・運用に対する認識を高める</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：加藤雅久（居住技術研究所） 幹事：齋藤歩（京都大学） 戸田穰（昭和女子大学） 委員：遠藤康一（宇都宮大学） 笠原一人（京都工芸繊維大学） 倉方俊輔（大阪市立大学） 佐藤美弥（埼玉県立歴史と民俗の博物館） 高木愛子（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館） 藤本貴子（法政大学） 増田泰良（東京工業大学附属科学技術高等学校） 三宅拓也（京都工芸繊維大学） 本橋仁（京都国立近代美術館） 安田徹也（竹中大工道具館） 山崎鯛介（東京工業大学）</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2021 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認 企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	<p>1. PD：建築資料の現在建築学—建築学におけるアーカイブズの役割を考える 参加者数 59名 『建築歴史・意匠部門パネルディスカッション資料：同上』</p>
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. 今年度は大会パネルディスカッション「建築資料の現在—建築学におけるアーカイブズの役割を考える」(2021年9月8日午前)を企画した。本研究集会では、齋藤委員のほか、角田真弓、森本祥子、松山龍彦、田良島哲各氏の参加を得て、大学組織の内部の学科、その他 MLA 部局において、どのように建築資料が形成されていくかに注目した。建築資料をアーカイブズ学一般の中で考え、活発な意見交換が行われた。設置目的に掲げた「①国内の建築アーカイブズ組織による合同活動報告会の開催」については十分にその目的を達成することができた。</p> <p>2. また同研究集会に合わせて資料を発行した。本資料においては第1部 PD の登壇者からの寄稿だけでなく、本小委員会設置十五年の節目に、過去の委員からこれまでの学会における、建築資料についての取り組みについて回顧してもらった(第2部)。また建築資料にかかる文献リストの整備にも着手した(第3部)。本資料によって「建築アーカイブズ運営にかかわる」課題の整理も進み、来期以降の活動に一定の方向性を示すものとなる。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 会議開催についてはオンラインで支障ない。今後はワークショップのように集まって実際に作業を共有する活動については制限を受けるだろう</p> <p>2. 2021年度研究集会の成果を、どのように今後の活動に繋げるかが課題</p>